

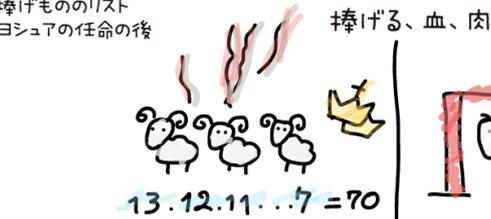


出エジプトの型 イスラエルの祭り

主への祭り・主の例祭

民数記：仮庵祭の捧げもの

28：-29：捧げもののリスト
ヨシュアの任命の後



おわり

出エジプト記：初子

12：1-28 過越、種なしパン
12：43-13：16 割礼、初子
23：10-19 種を蒔く、年に3度
34：18-26 初子のあがない

・過越祭 ペサハ



はじめ



受ける、実、パン

申命記：主の選ぶ場所で

16：主が御名を住ませるために選ぶ場所で
31：10-13 律法を読む

- ・贖罪の日 ヨム・キプール
- ・仮庵祭 スコット
- ・律法の日 シムハット・トーラー

レビ記：初穂

23：種なしパン、種ありパン、断食、会食
25：7×7年、ヨベルの年

・七週祭、五旬節 シャブオット

主の祭り、3つの3大祭りについての教えは、4つの書物で教えられています。出エジプト記やレビ記…それぞれの書物の中での説明の強調点が違うようです。

出エジプト記を見ますと、過越の出来事の書物です。過越して海を分けて民が救われる。その過ぎ越しの出来事の前に、まず「過越の祭りを行いなさい。」と言われてから過越の出来事があります。ここでは、割礼や初子の贖いのことが強調されています。

次にレビ記。レビ記は出エジプト記の過越の祭りのあと、種なしパンの祭りのあとの日に「初穂を揺り動かさなさい。」と言われてるところから始まって数えて7週目が初穂の祭りです。これが「種を入れてパンを作りなさい。」と言われているレビ記です。

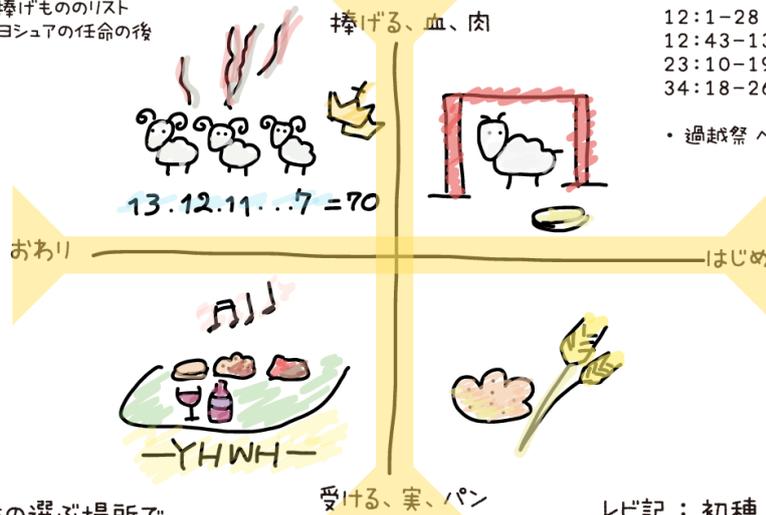
民数記にも祭りについての教えが記録されていますけれど、特にヨシュアが任命されて、エルアザルに油注がれてモーセの後継者であると任命されたあとに、捧げ物のリストが書かれています。その中でも仮庵の祭りの捧げ物が1日ずつ何頭捧げるというのが違ってきます。それが7日間書かれているところで、まず、1日目は雄牛13頭、次に12頭、11頭と少なくなつて、7日目は7頭というふうになっていますけれど、これは全部数えて足すと70頭になります。それは、ヨシュアがこれから戦っていくその戦いは、イスラエルを代表するものですが、それと同時に全世界の王の代表として戦うのだということも表されているともう思います。

そして、申命記。申命記はこれからヨルダンを渡って約束の地に入っていきますけれども、その言い方が「主が御名を住まわされるために選ぶ場所で一緒に食べて喜びなさい。」これが、申命記の中で強調されているところです。主が選ぶ場所で、これから主が御名を置いてくださる場所で、一緒に皆で喜ぶのだ、これが仮庵の祭りの成就なのだということが強調されていることです。

主への祭り・主の例祭

民数記：仮庵祭の捧げもの

28：-29：捧げもののリスト
ヨシュアの任命の後



出エジプト記：初子

12：1-28 過越、種なしパン
12：43-13：16 割礼、初子
23：10-19 種を蒔く、年に3度
34：18-26 初子のあがない

・過越祭 ペサハ

申命記：主の選ぶ場所で

16：主が御名を住まわせるために選ぶ場所で
31：10-13 律法を読む

- ・贖罪の日 ヨム・キアール
- ・仮庵祭 スコット
- ・律法の日 シムハット・トーラー

レビ記：初穂

23：種なしパン、種ありパン、断食、会食
25：7×7年、ヨベルの年

・七週祭、五旬節 シャブオット

最初の2つの書物、出エジプト記とレビ記を見ますと、初子、そして初穂。初めにということが強調されているようです。民数記と申命記は特に仮庵の祭りについての教えが強調されているようです。こちらは、終わりの書物、7月、一年の終わりの月の書物と言えると思います。

また、上の2つを見ると、出エジプトと民数記は捧げるもの。(下段の)レビ記はパンの祭り、7週の祭りは与えられるもの、申命記も食べて与えられるもの、受けるものというように、(上段で)捧げるものと(下段で)受けるものと区別されているように見えます。そのように各書物の中で、この祭りの意味を全体のストーリーと共に説明しているとことになっていますので、よく見てご自分で調べてみてください。